

学校教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、共に生きる豊かな心とたくましい身体を持ち、自ら学ぶ意欲と確かな学力を身につけた人間性豊かな児童の育成
～やさしく かしこく たくましく～

めざす児童像

やさしく

互いに認め合い、支え合う子ども

かしこく

進んで学び、工夫する子ども

たくましく

粘り強く、たくましい子ども

基礎・基本の定着

基礎・基本の徹底

- ◎バリバリタイムの活用 (漢字・計算)
- ・内容の検討と整備
- ◎家庭学習の習慣化
- ・学校外での学び → 学びの習慣化メソッドの周知・活用

< 研究主題 >

自分や友だちのもちあじを認め合い、表現し合える豊かな人間関係づくり
～ なかまづくりと学力向上の取組を通して ～

《令和4年度 全国(6年)・県(5年)・市学力(3～4年)調査状況調査》による児童実態調査

- 3～6年生では、各調査の平均正答率が、市や全国の平均を上回る結果となった。
- 漢字の読み書きなどの問題の正答率が高い。
- 算数では、九九や筆算などを用いる、比較的短い式で答えが出るものの正答率が高い。
- 国語や算数の記述式の問題では、無解答の児童は少ないが、正答率は低い。
- 算数では、「データの分類や整理」「数量の関係」に関する問題の正答率が特に低い。

《 銭座小学校児童の学びの実態及び課題 》

- つぶやきや発言が多い。
- 意欲的に学びに向かう児童が多く、学級に、多様な考えを認め合う雰囲気がある。
- 学習規律の徹底により、学習の流れが根付いてきている。
- 領域ごとに理解度の差がある。
- 個人ごとの学力が二極化している。
- 思考力・判断力・表現力を用いる問題を苦手としている。
- 題意を捉えられず、特に記述の問題において、条件を満たしていないことがある。
- 学習したことが、生活やその後の学習と繋がっていない児童が多い。

実態把握のため、全学年RSTを実施し考察を行う。

< 授業改善 >

- ◎3つの視点を意識した授業づくり
 - ・自己存在感をもたせる支援 (意見・考えの可視化など)
 - ・共感的理解を育成する支援 (ペア学習・グループ学習など)
 - ・自己選択・決定場面の設定 (自分なりの「めあて」と「まとめ」、見通しの決定など)
- ◎一人一台端末の活用 (個別最適な学び、協働的な学びへの対応)
- ◎あじさいスタンダード、長崎県読解力育成プラン、授業改善メソッド、学力向上研修の活用
- ◎リーディングスキルテストの結果を生かした、読解力スキルの指導
- ◎ユニバーサルデザインを意識した授業及び学習環境づくり
 - ・五感に訴える導入場面の工夫
 - ・構造的な板書
 - ・学びの足跡の掲示
- ◎AIドリルの活用による基礎的基本的な内容の習熟
- ◎発展的・応用的な問題への挑戦 (ゆめあこプリントなど)
- ◎苦手な領域に関わる思考力・判断力・表現力を発揮できる場面の創出
- ◎銭座小学びのスタンダード
 - ・学習規律を徹底する。
 - ・「めあて」と「まとめ」を明確にし、整合性を図る。
 - ・ノート整理の指導をする。
- ◎振り返る活動の充実
 - ・本時の学びの活用場面を設定する。
 - ・自らの学び方について振り返らせ、メタ認知させる。
 - ・本時の学びと生活場面への応用を関連付けて考えさせる。

重点目標：自分の考えをもち、表現し合う学びのプロセスを身に付ける
カラーテストの学級平均90点以上を目指す

学級経営

支持的風土の醸成により安心して学べる環境作り

- 「できた」「わかった」の笑顔があふれる授業
- 目標に向かって、協力して学び合う学級
- 支持的風土、優しい言葉で満たされた学級

子どもが成長する喜びを分かち合う職員室

本年度の重点目標 (キーワード)

わたしが主人公、一人ひとりが主人公

わたしがわたしをつくる わたしの学校生活をつくる

全職員が自校の課題を理解し、日々の授業改善につなぐ職員室

- ・児童理解の場などでの情報交換
- ・教師の自己評価による教師力UP
- ・教材室・教材・教具の整理整頓

研修の機会を学校の内外に求め、学び続ける職員室

- ・校内研究の充実
- ・中学校区内小学校の研究会への参加
- ・市・県の研究発表会への参加

学年・教科・世代を超えて語り合う職員室

- ・若手教員育成のための研修
- ・作成教材の共有・蓄積 (働き方改革)
- ・あじさいBOXなど市・県教材の活用

思考力・表現力・判断力の育成

主体的・対話的学びの推奨

「夢・憧れ・志」を共に育む
家庭・地域との連携

- ◎キャリアパスポートの作成
- ・学校間や将来を見通した学び
- ◎Society5.0 へ向けて
- ・プログラミング教育の充実
- ・ICT教育の推進
- ◎国際化社会への対応
- ・外国語の学習の充実
- ・ALT・EEIとの交流
- ◎家庭との連携
- ・学校便りや学級通信などでの啓発活動
- ◎地域との連携
- ・放課後子ども教室の実施
- ・朝の立哨や集団下校での見守り

言語活動・表現活動の充実

- ・ねらいに即した「書く活動」を充実する。
- ・情報を収集・整理・分析・活用する。
- ・考えたことや伝えたいことを書く。
- ・表やグラフなどを用いて考えたり説明したりする。
- ・観察や実験の結果を整理し考察する。
- ・言葉・絵・動作などで表現する。

言語環境の整備・読書指導の充実

- ・語尾をしっかりと、正しい言葉で話す。
- ・掲示教育を推進する。
- ・正しい日本語を指導する。
- ◎主体的・計画的な図書館の利用
- ◎司書教諭との連携
- ◎音読・暗唱指導の推奨
- ※コロナ対策のため工夫して行う。

生活指導の充実

- ◎「あ・は・は運動」の推進
- ◎「あいさつ・あるきかた・あとしまつ」3つの「あ」の意識付け
- ・2か月ごとの目標設定、振り返り
- ◎児童の実態把握と経過観察
- ・いじめアンケートの実施 (月1回)
- ◎メディアとの付き合い方の指導
- ・メディアコントロールチャレンジ
- ・SNS ノートながさきの活用

特別活動の充実

- ◎課題箱を活用した代表委員会の運営
- ◎縦割り活動 (遊び・清掃)